

名称	弾道管
建築年代	不明、史料上の初出は昭和9年（1934）
構造	管とそれを支える台形および角型橋脚（12ヶ所）からなる。
用途	火薬研究所で、火薬の隠蔽式発射試験に使用された設備
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管はコンクリートヒューム管であり、内部に「ACRK 27吋 722」の銘を持つ既製品と考えられる。管は端部分のみ2層溝となっており、外線は鉄線をセメントで塗り固めた構造を持つ。</li> <li>・橋脚は煉瓦組みの上にコンクリートを塗り固めた構造で、側部に電線用碍子が上下に2つ設置されている。</li> <li>・管と橋脚は鉄製バンドをボルトで固定している。</li> <li>・戦前においては、西端は燃焼実験室北東隅の部屋に連結し、東端はコンクリート構造物の射塚（しゃだ）に連結していたものと考えられるが、現在は燃焼実験室とは切り離され、射塚部分は除去されている。</li> </ul>

